

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4370800700		
法人名	社会福祉法人 平成会		
事業所名	グループホームあやすぎの里		
所在地	熊本県山鹿市鹿北町岩野5497-1		
自己評価作成日	平成26年2月27日	評価結果市町村受理日	

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaijokensaku.jp/43/index.php
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	(公財)総合健康推進財団
所在地	熊本県熊本市中央区保田窪1-10-38
訪問調査日	平成26年3月24日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

多くの自然に囲まれた閑静な地区にあり、日常生活の中で、ふんだんに四季を感じる事ができる。地区の催し事や地域サロンに参加をしながら、地域住民との関係作りにも努めている。また、併設施設や法人内の保育所、近隣小学校との交流を行ない、利用者が刺激を持てるような工夫や、利用者がこれまで築かれてきた関係性の継続に配慮している。月毎の家族へのお便りや都度の報告、今年度も家族からの提案もあり家族交流会を開催する等し、家族との関係の強化、助言をいただけるような関係作りにも配慮している。又、施設内には月毎の写真を展示することで、面会者や見学者に普段の様子や行事等の様子を知って頂ける様な工夫も行っている。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

小高い山里の静かな環境に立地された、近隣の住宅と母体が経営する保育園、介護老人福祉施設に囲まれた、落ち着いた雰囲気のある施設です。施設の職員の定着率が良くチームワークが図れ、資格取得に関しての意欲も高い施設です。10年程前に建てられた施設ですが、防災関係の設備面も充実しておりボタン一つで消防署通報や職員の携帯電話にメール配信システムが整備されています。運営推進会議では、行政との意見交換が活発に行われ、認知症に対しての「ご近所さん検索模擬訓練」などが話し合われ、山鹿市行政との官民の垣根を越えた形で、さまざまな高齢化社会に対しての介護予防の拠点づくりや取り組みをしている施設です。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者や職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー) + (Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	事業所の理念を基に、常に情報の共有に努め理念の実践に繋げている。	法人全体で講師を呼び、研修会で理念そのものの必要性を理解するようにしている。ホームの理念は玄関や職員トイレに提示してあり共有するようにされていた。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域福祉協力員の協力を得ながら、事業所の行事に地域の方を招き交流会を行う等機会作りに努めた。又、運営推進会議を通じて地域との情報共有に努めた。	施設が主催する茶話会等の行事に、市から要請された地域福祉協力員が協力し、地域の高齢者の団体や小中学生や、保育園児等との活発な交流が施設の枠を超えて行われていた。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	運営推進会議による、情報の共有と伝達。今年度も地域の『ご近所さん検索・声掛け訓練』に主催者として参加し、意見の交換・助言等を行なった。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	開催時に情報共有や情報収集に努め、相談に応じたり、行事の開催に繋げている。	会議で前年の外部評価で出た防災に関する課題に関しても全員で話し合われていた。また、地域のサロンがなくなることなども話し合われ、施設と地域、家族の垣根無く、前向きに検討されていた。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	運営推進会議へ参加して頂き、情報共有や依頼等があれば可能な限り参加し協力を行っている。	運営推進会議のメンバーに保健師や行政職員、民生委員や社協、サポートリーダー(教育を受けた一般人)、家族など多職種の方の活発な意見交換が行われており、行政が積極的に施設との連携をし、お互いの情報交換の場とされていた。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束を行わないケアを前提とし、状況に応じてスタッフ間や家族とも相談・検討を行ない実践に繋げている。	転倒防止や徘徊防止策として、個別化ケアで取り組み、利用者それぞれに環境を工夫し、センサーマットやベッドの配置、ドアに鈴をつけたりし拘束しないケアを心掛けていた。身体拘束や虐待についての研修も行われていた。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	ミーティング等で虐待について意識の統一を図り、日常の対応の中でもスタッフ間で互いに声を掛け合う等し、虐待防止に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	研修会に参加し、参加が出来なかったスタッフへの伝達講習や、学ぶ機会作りに努めている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	運営規定や重要事項説明書を用い、しっかりと理解を得られるような説明に努め、必要時または質問を受けた際には、時間を設け納得いただけるような説明を行なっている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	利用者・家族・近隣住民・関係者等から要望や意見が出た際には直ぐにスタッフ間での検討を行ない、可能な限り運営に反映している。又、検討結果はその旨家族等へも報告し理解を得られるよう努めている。	家族から直接ホーム長に対して「職員や他の家族との交流をしたい」との要望が出た為、1昨年から年1回、施設が企画し食事会やパン作りなどを行っており、そこに家族が10名以上参加されたりして、要望を聞きだしやすい雰囲気作りの工夫がなされていた。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	管理者は業務の中やミーティング等を通じ、意見が出た際には、しっかりと話の聞き取りに努めている。又、代表者へは管理者を通じて意見を伝え可能な限り意見が反映されるよう努めている。	施設職員の定着率がよく、職員の連携が上手く出来ている為、要望は管理者を通じ代表者に聞き入れられることが多く、研修機会もあり資格取得に関しても職員が意欲的であった。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	可能な限り要望を反映できるような職場環境・条件の整備に努めている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	スタッフの個性を生かせるような役割分担を行ない、研修への参加やミーティング等での発表の場を作る等し、各スタッフの能力向上の機会作りに努めている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	グループホームのブロック研修会やその他の研修などを受講する機会を設け、同業者等との交流の機会を作っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	事前に家族や関係者からの聞き取りを行ない、資料を用いながらスタッフが利用者の状況をしっかり理解し、情報を踏まえながらその方と関わり、信頼し合える関係作りに努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	出来る限り多くの情報を得られるように、しっかりと時間を掛け、利用者や家族等からの聞き取りを行なうと共に、入居後も生活の様子や面会の際等に報告・相談を行ない信頼関係の構築に努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	入居前の状況把握に努め、入居後も安心して生活出来る様、必要なサービスの導入がスムーズに行なえるような関係者・関係機関との連携を図っている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	利用者の能力について、スタッフ間で情報を共有・理解し、本人が自信を持って生活が送れるような援助の工夫を行なっている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	家族も積極的に関わられる様な機会づくり・環境づくりに努めている。家族には交代制で運営推進会議に参加して頂くなど関わりを持てる努力をしている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	入居後もこれまで関わられてきた方々との関係が維持できるような支援を行ない、また、面会にも来易いような雰囲気作りに努めている。	職員同行のもと、利用者が地元のサロンに参加されていた。隣接する施設に入居している知人や友人との面会の機会を設けられている。参加は少ないものの、誕生会に家族を呼びかけるなどの工夫がなされていた。	これまでの馴染みの関係の維持はもちろん、今以上に家族との交流が盛んになるような取り組みに期待します。
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	日常生活の中での関係性をしっかりと理解し、利用者同士が直接、またはスタッフを通しお互いに支えあえるような機会作りを行ない、スタッフが関係構築の妨げにならないように注意している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	サービス終了後も管理者が時折家族へ連絡をし状況の聞き取りを行ったり、担当ケアマネージャーから聞き取りを行なっている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	入居時にゆっくりと話をし、想いをしっかりと聞き取れるようにし、様々な活動を通じ、話をする中から本人の興味や想いを引き出せるようにしている。	入居時には、施設や病院・自宅などに出向き、様々な情報の聞き取りがなされ、施設入居前の家族や利用者本人の不安の払拭を図っている。入居後も家族からの話を、じっくりと聞く時間を設けるように工夫されていた。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	利用者や家族、前担当ケアマネージャー、知人から可能な限り聞き取りをし、情報収集を行なっている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	ケアマネージャーを中心にアセスメントを行ない、現状の把握、状態の共有に努め、日常のケアに繋げている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	生活の中で得たニーズ・課題をスタッフ間でのカンファレンスや、本人・家族との話し合い、時には知人や運営推進会議でのアドバイスを受け、ケアプランを作成し、より良いケアの提供に繋げている。	毎月施設から送付する家族宛の報告書には、詳細に投薬の内容や最近の心身状況や行事を報告し、それを読んだ家族からの意見を取りやすくしている。利用者1人ごとに担当職員を配置し、週に1回程度、チームでケアについての話し合いがなされていた。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	その方の暮らしや現状の課題を分かり易く記録し、確実な情報の共有に繋がれるような記録に努めている。又、必要時には記録様式の変更や記入方法を検討し、改善に努めている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	社会福祉協議会に相談し、開催行事に参加をしたり、地域の核となる方々との連携を取りながら、柔軟にサービスの提供が出来るように努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域サロンへの参加や地域行事への参加等、資源を活かしながら楽しみを増やせるような取り組みに努めている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人・家族の意見を尊重しながら、入居後のかかりつけ医を決めている。かかりつけ医を入居後に変更する場合には、安心して医療を継続して受ける事ができるような情報の伝達・共有を行なっている。	基本的には、入居前のかかりつけ医を継続しているが、緊急時に対応できるような医療体制もとっている。受診には、職員が付き添うようにしており、主治医との連携も図ることができ、その結果は電話で家族に伝えられていた。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	状態の変化がある場合には、すぐにかかりつけ医に相談・対応を行ない、本人や家族の安心に繋げられるように支援している。訪問看護・訪問診療を利用する場合もあり、柔軟に対応できる様な連携が取れるように努めている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院後も面会や家族、病院への連絡を行ないながら本人のストレスの軽減に努め、しっかりと情報共有しながら早い退院へ結びつけられる様に努めている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所のできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	主治医や家族との話し合いを持ち、訪問診療等の支援も受けながら、可能な限りホームでの生活ができるように支援している。しかし、出来る支援にも限界がある為、家族へもその状況をしっかりと伝え、理解を得ながら必要性があれば入院を勧めたり、併設施設とも連携を持ち、スムーズに特養への入所ができるように努めている。	入居前に家族に対して、常時医療行為が必要な方への対応が困難であることや、看取りは行っていない旨の説明をホーム長から行っている。誤嚥性肺炎等を繰り返し、今後吸引等の必要性がある利用者には、主治医からの説明を受け、家族と施設の話し合いを行い、病状に添った対応ができる施設等への転居がなされていた。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	かかりつけ医からの助言を仰ぎながら、必要に応じ緊急時の対応についてスタッフ間で話し合いを持ち、実践出来るように努めている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	昼夜想定避難訓練を実施し、全スタッフが利用者が非難できる方法を身につけることが出来るよう努めている。また、運営推進会議での伝達及び、地域の防災訓練に参加し、事業所の概要を伝えたり、見学して頂く等し、グループホームの事をご存じない方にも関心を持って頂けるよう努めている。	昨年の外部評価の課題であった、防災に関する取り組みが運営推進会議の中で話し合われ、地元消防団との協力で避難訓練や施設の見学などが行われていた。緊急避難先指定で非常食の備蓄がある隣接母体施設での協力も得られ、施設の火災報知機や緊急システムが完備されていた。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	日常のケアにおいて、スタッフ間で助言し合ったり、より良い対応についてミーティング等での話し合いを持つ等し、資質向上に繋げている。	下着がずり落ちたりなどのプライバシーに関わる状況があるときには、人の目に触れないように介助したり、排泄案内なども小声でなされていた。職員は利用者の居室のドアを必ず閉めるように徹底しており、プライバシーが守られるような配慮がなされていた。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	傾聴に努め、想いをしっかりと引き出せる様に努めている。スタッフ間でも情報の共有を密に行ない、より良い関係性が維持できるよう努めている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	食事・入浴に限っては、時間を決め提供しているが、場合によっては利用者の状況に応じて臨機応変に対応している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	趣味・趣向を大切に支援している。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	本人の気持ちが向くような配慮に努めながら、声掛けや必要な支援を行なっている。その際には、無理強いをする事がない様にしっかりと様子を伺いながら対応している。	食事は母体の特養の栄養士が作成した献立で栄養管理されている。昼と夕食は利用者も調理を手伝っていた。日曜日には利用者とおやつを作ったり、園庭での食事を楽しむ等の工夫がなされていた。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	併設施設の管理栄養士が立てた献立を基に季節感を感じれるような料理を調理し、提供している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	併設施設の歯科衛生士の指導の機会を設け、本人の口腔内の状況の把握・適したケアの実施・口腔体操等を行なっている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	状況に合わせて迅速に検討行ない、本人の想いをくみ取りながら、環境作り・配慮に努めている。	現在は、1人だけがオムツ使用で、その他の利用者は全員、排泄記録を見ながら職員が介護計画に添い、トイレへの案内をする仕組みが出来ていた。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	水分がしっかりと確保できるような食事の工夫や、主治医・栄養士とも相談をしながら気持ちの良い排泄に繋がられる様にしている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	入浴は13:00～16:00の間で提供。本人の気持ちや希望、身体の状態を見ながら提供している。	1時から4時までの時間帯で毎日入浴が出来るような体制がとられ、大きい浴槽で友人同士で入ったり、菖蒲湯や入浴剤の使用で入浴を楽しむ工夫がなされ、浴室内の床や空調などの設備も整備されていた。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	環境作りや空調の調整等しながら、安眠が得られるように配慮している。どうしても睡眠に満足が得られない様などには、主治医と相談をしながら適切な対応に努めている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	利用者が服用する薬について、スタッフがきちんと把握し、処方の変更があった時には、主治医や薬剤師より十分に注意事項の聞き取りを行ない文書及び口頭による申し送りを行なっている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	本人や家族からの趣味・趣向の聞き取りに努め、入居後も継続して行なえるような支援を行なっている。又、新しい楽しみ事を見つけさせるような配慮にも努めている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	家族の協力を得られる方においては、相談しながら外出・外泊の機会が持てるようにしている。病院受診の帰りに自宅へお連れし家族と会う機会を作ったり、希望があれば買い物にお連れする等している。又、買い物やバスハイクが行なえるような行事の企画を行なっている。	利用者とともに買い物に出かけたり、ドライブや花見などの行事が計画されている。月1回地元のサロン活動に参加したり、通院の介助を施設職員が行っているため、帰りに自宅に立ち寄るなどの支援がなされていた。	地域性もあるとは思いますが、もっと利用者の外出意欲が出るような積極的な取り組みに期待します。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	金銭の理解がある方については、本人で所持されている方も中には居られ、家族の方に確認して頂きながら本人の理解度に応じ、事務所で預かったり家族に管理して頂いている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	電話の使用については制限をせず、希望時に必要な対応をしている。手紙が届いた際には、返事を書かれないかと勧め、希望時には代筆する等必要な支援を行なっている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	テーブルやホーム内には、季節の花を飾ったりテラスに花を植えるなど、季節を感じれる配慮をしている。又、不快さや混乱を招くような状況が見られる時には、迅速に対応している。	施設の中央の食堂横に仏壇や床の間が設けられている和室があり、自宅にいるような雰囲気がある。自室以外の共有スペースの腰高以上の空間に関しては、仕切りが無く圧迫感を感じさせない工夫がしてあった。天井も高く、家具は木材の色に合わせてあり落ち着きがあり、明るい雰囲気である。	窓が大きいので、隣接した施設から廊下越しに直接お互いが見えてしまうという環境なので、プライバシー保護の面でも、今後の工夫に期待します。
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	廊下にテーブルや椅子を配置、リビングと居室の中間となる空間作りにも努めている。又、避難経路の障害物になっていないか等検討し、安全にも配慮しながら工夫している。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室は、本人や家族・スタッフ間で相談行ない、本人の心身の状況に応じて家具の設置などをしながら安心して安全に過ごせるような配慮を行なっている。	自室にはトイレ・洗面台・ベッド・箆箆などが設置されており、それぞれの利用者の身体状況に合わせ、自立につながるように、安全に配置されたい。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	死角となる部分の整理や危険物の除去、トイレや目印になるものの設置など安全に配慮しつつ、温かみのある環境作りに努めている。		